

展示会報告

■ 東南アジアの布展

ラオスやタイ北部の山岳少数民族を中心とした布の展示会が四月十二日(土)～五月十一日(日)の期間、開催されました。

この布展では、地元の民族衣装の巻きスカートから正装用のシヨール、寺院の天蓋(てんがい)を飾る布まで様々な品が並びました。

今回の展示会の大きな特徴は、作品を御貸しいただいたコレクターのご好意により、作品をケースに入れずに展示したことでした。作品によっては、空中に吊つたり、人が着用するように巻いたりした状態で展示したものもあります。それにより、布の感触や織り方を直に見、手にとって確認ができ、織物ファンや実際に織りに携わる方などから大変好評をいただきました。

会期中は宮里正子氏(那覇市歴史博物館)による作品解説会も開催されました。



解説会と展示室の様子

■ 「ふなやとへの想い」写真展

五月二十八日から十七日間にわたり開催された「ふなやとへの想い」写真展―前原基男(竹富島)・大城信吉(中城城跡)―は、好評のうちに終了しました。故郷の竹富島で暮らす人々の日常的な表情や祭祀の様子を撮り綴った前原氏の写真は、優れた作品であるとともに、歴史的・民俗学的にも評価されています。来館者からは「懐かしいさあ」「こんなだったね」という声が聞こえました。世界遺産に登録された中城城跡の姿を季節を追って撮影した大城氏の写真、勇壮さの中にも趣のある中城城跡は、季節や時間により私たちの知らない新たな表情を見せてくれました。

期間中、前原氏・大城氏によるデジタルカメラ教室を開催。撮影からパソコンへの取込みと画像処理までのコツを教わりました。両氏による作品解説会では多くの方が熱心に聞き入っていました。大城氏の解説会では、中城城跡ボランティアガイドの山城さんの協力により、史跡案内を兼ねるという一風変わった解説会が行われました。



デジタルカメラ教室の様子

■ 「人間国宝 秋山信子 人形展」

六月十七日から二十九日まで「人間国宝 秋山信子 人形展」の道を行く―きた道、往く道―が、開催されました。平成十二年に人間国宝に認定され、今年八二歳になられる秋山氏の集大成と言っても過言でない今回の展示会には、これまで出品したことのない作品や現在手元には無い作品のパネルなど、一二九点の人形たちが紹介されました。沖縄やアジア各地を題材にした作品は、単なる民族衣裳を着た人形とは違う、普遍的な「美」を内に秘めています。人形たちの穏やかで豊かな表情に、訪れた方々は、きつとやさしい気持ちになったことでしょう。

期間中には、大学生を対象にした人形作り教室も開催されました。受講生達は、秋山氏やお弟子さんから丁寧な指導を受けながら、独自の人形作りに没頭していました。

最終日には作品解説会が講堂で行われ、物静かに語る秋山氏の言葉に多くの参加者が熱心に聞き入っていました。



テープカットの様子